

第2章 景観形成の目標

1 景観形成の目標（キャッチフレーズ）

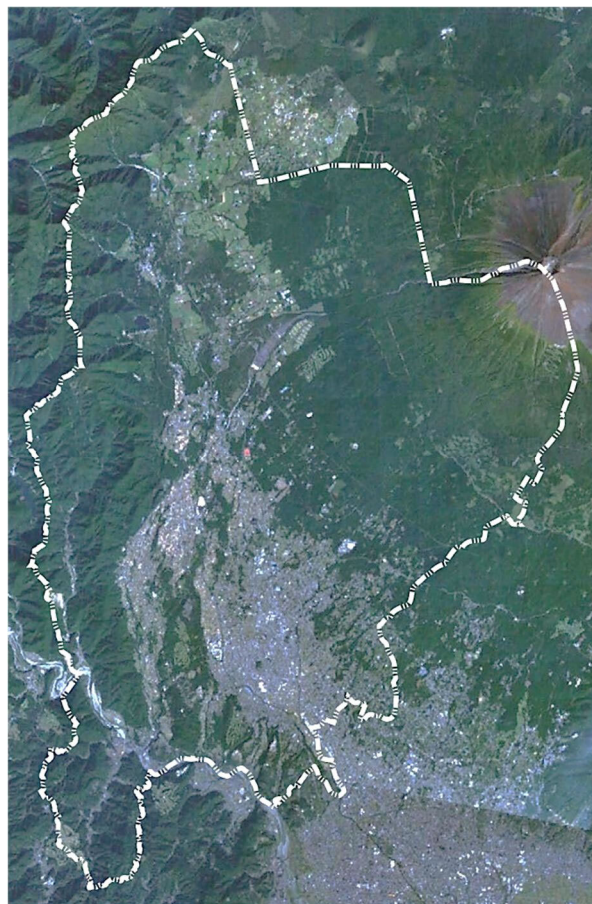
富士山の庭園都市へ

富士山を擁する本市は、その優れた自然の恵みを生かし、歴史や文化を育みつつ発展してきました。富士山は、日本はもとより世界の人々に知られた我が国の象徴であり、国を代表する景観の一つです。更に、芸術や信仰の対象となるなど、昔から極めて多くの人々に対し、親しみや畏れを感じさせてきた貴重な財産です。これらを踏まえ富士山自体の優れた景観を継承することがまず大切です。

市域の西側に連なる天子山地や羽鮒丘陵、白尾丘陵、明星丘陵、富士川、潤井川、芝川などは、市民が親しむ地域の景観であり、それぞれ地域の生活とともに保全し活用することが重要です。

また、これら豊かな緑と水の中に、自然と調和した美しいまち並みや道路や公園が整い、あるいは、手入れの行き届いた田畑や牧草場が広がる、暮らしの景観を構成していきます。

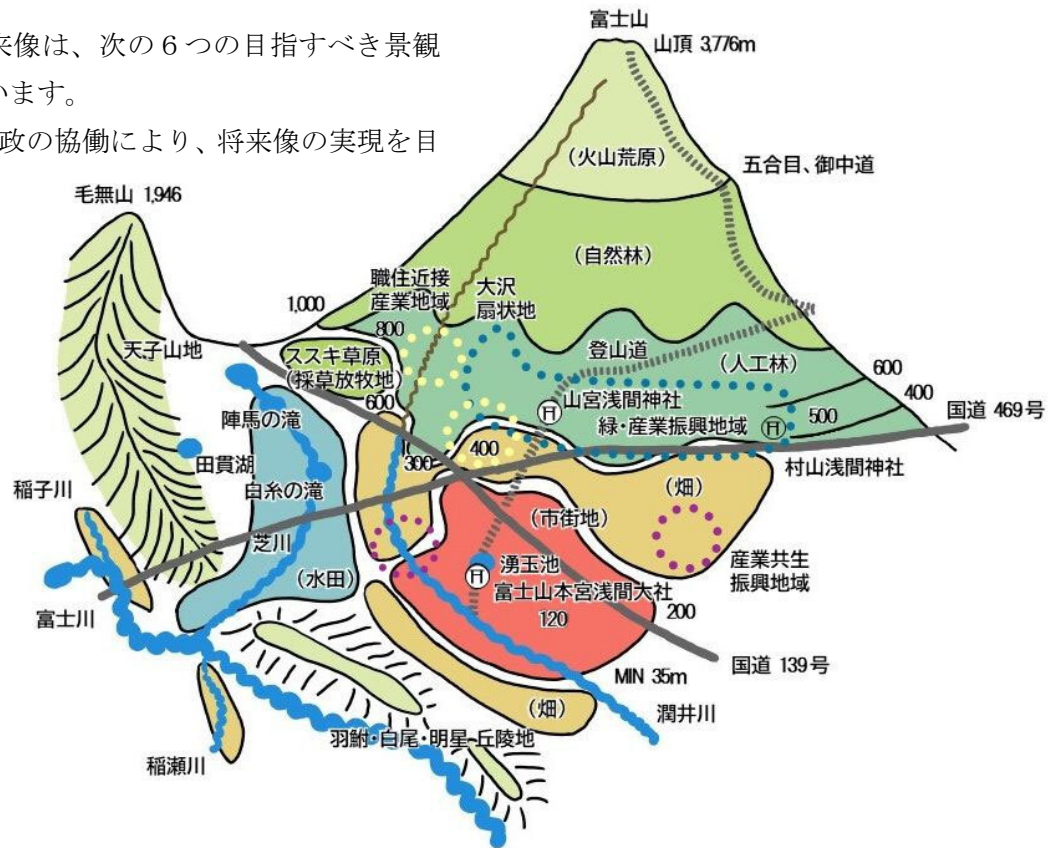
このようにして創出されていく景観を庭園都市と表現し、「富士山の庭園都市へ」を本市の景観形成の目標とします。



2 景観の将来像

本市の景観の将来像は、次の6つの目指すべき景観により構成されています。

市民、事業者、行政の協働により、将来像の実現を目指します。



2-1 ふるさとの原風景たる自然景観を大切にすまち



本市は富士山、天子山地などに囲まれ、その間に朝霧高原など富士の広大な山麓が広がっています。また、これら山地への降水が地下に浸透し湧水となって地表に現れ、芝川や潤井川となって流れ、芝川は急流富士川に合流し、富士川と潤井川はそれぞれ駿河湾に注いでいます。本市の恵まれた富士山を中心とする類稀なこれらの自然は、市民にとってふるさとの原風景となっているだけでなく、多くの観光客を惹きつける資源にもなっています。このような景観資源を未来に引き継ぐため、より豊かでより美しい自然景観のまちを目指します。

〈将来の景観イメージ〉

- ・富士山体に、フジアザミやブナ等の植生が復元され、よく手入れされた針葉樹の人工林が広がっています。
- ・富士山にはごみがなく、気持ちよく登山が楽しめます。
- ・市北部には、朝霧高原が広々と広がり、秋には一面ススキ草原となります。
- ・朝霧高原、田貫湖では、豊かな自然になじむように、観光・スポーツ・レクリエーション施設が立地しています。
- ・天子山地や丘陵地に、よく手入れされた針葉樹の人工林や四季が感じられる広葉樹林が広がっています。
- ・市街地や農村などに清く豊かな水流の潤井川、芝川、神田川などが流れ、市民が清流や河畔の緑に親しんでいます。
- ・白糸の滝、湧玉池などの景勝地は、自然本来の美しさと、周囲の環境と調和した施設があり、その美しさに惹かれ多くの人が観光に訪れています。

2-2 生業として育まれた農村景観を継承・充実するまち



水田、牧草地、茶園などの農地や集落からなる農村地域には、それぞれの暮らしの中で形づくられてきた風景があります。今後もそれぞれの地域の農業やコミュニティの維持、振興と併せ、緑豊かな農村景観が継承される地域としていきます。

また、朝霧高原における農業に関する観光振興との連携を図りつつ、より充実した農村景観が維持、充実できる地域としていきます。

〈将来の景観イメージ〉

- ・潤井川や芝川沿いなどに、水田が広がり、農道や水路などがよく手入れされています。集落は、民家の形態などのまとまりがとれており、屋敷林が残り、周辺の水田と一体となった景観となっています。
- ・丘陵地や富士山麓に、茶園や畑が広がり、農道などがよく手入れされています。集落は、民家の形態などのまとまりがとれており、屋敷林が残り、周辺の茶園や畑と一体となった景観となっています。
- ・朝霧高原に牧草場が広がり、富士山を背景にして牛が草を食べています。統一性がある畜舎や牧柵などの景観が、酪農地帯の朝霧高原の印象をより強くしています。

2-3 富士山と調和し個性を生かす市街地景観を創出するまち



市街地は、富士山の麓にあり、緩やかな地形の上に形成されているため、市内随所から市街地を眺めることができます。

個々の住宅、商店、工場などがそれぞれ周囲と調和し、また、まち並みとして周囲の自然と調和することにより、より良い印象を与える市街地となります。また、本市では大規模な建造物などで富士山の眺望を阻害しないようにすること、富士山本宮浅間大社に代表される富士宮らしさを生かしたまち並み形成も大切です。

これらに配慮して、全体として調和し、地域の個性を生かした市街地景観を創出するまちとしていきます。

〈将来の景観イメージ〉

- ・富士の麓に、落ち着いた印象の建築物などから成る住宅地などのまち並みが広がっています。
- ・富士山本宮浅間大社や富士宮駅の周辺に、富士山本宮浅間大社の門前町をイメージした商店街のまち並み、歴史的な建物、生活の感じられる路地が見られ、多くの人が買い物や散策、観光に訪れています。
- ・まちなかに、建築物周りの緑や社寺林などが溢れ、清らかな水が湧き、流れており市街地周辺の自然と一体となった潤いのある景観となっています。

2-4 場所に適した公共施設景観を創出・維持するまち



道路や河川、学校や庁舎など公共施設は、多くの市民が日常的に利用し、また、長い期間使用されるものであることから、その整備に当たっては景観に十分配慮することが大切です。

それぞれの立地場所や施設様態に対応し、その場所の眺望を活用すること、周囲の自然やまち並みと調和したものとすることとします。更に、市民の協力などによる美化活動など適切な維持管理にも配慮し、美観が保たれるまちとしていきます。

〈将来の景観イメージ〉

- ・ 周辺の自然や歴史を生かした道路や公園が整備されており、草刈、花木の手入れなど、みんなの手で美しく保たれています。
- ・ 官公庁施設や教育施設、コミュニティ施設などの公共建築物は、形態や色彩などが地域の自然やまち並みと調和しているとともに、四季を感じることできる景観となっています。

2-5 富士山などに因む深い歴史を感じるまち



本市には富士山本宮浅間大社や村山浅間神社、あるいは、富士講の拠点である人穴富士講遺跡など富士山信仰にかかる有形の歴史文化財が多数存在します。また、頼朝の巻狩にかかる史跡や伝承地、古民家、製紙業のレンガ建築などが市内各地にあります。

このような歴史資源は、本市を特徴づける貴重な景観を呈しています。これらを保存継承するとともに、周囲のまち並みなども調和に配慮し、より深い印象を与える歴史的景観のあるまちとしていきます。

〈将来の景観イメージ〉

- ・ 富士山信仰にまつわる富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社、人穴富士講遺跡などの歴史資源とその周辺が清々しい空気に満ちており、多くの人が参拝などで訪れています。
- ・ 狩宿の下馬ザクラ、曾我兄弟の隠れ岩、陣馬の滝など、源頼朝や曾我兄弟などにまつわる名所が往時を思い描くことができる姿で残っており、歴史に思いを馳せようと多くの人が観光に訪れています。
- ・ 歴史的な寺社、民家、近代産業施設、道祖神などの石造物、巨木、水路や貯水池などが、各地域の景観の目印や象徴として大切に残されています。

2-6 多くの人に感動を与える富士山の眺望があるまち



市内の至る所から眺望できる富士山は、常に市民の生活の中にあり、自然の美しさを感じさせてくれます。富士山本宮浅間大社、白糸の滝、朝霧高原などの名所、景勝地から眺める富士山は、これらの景観と相まって特に美しく、多くの観光客が訪れてきます。

市内外の多くの人を感動させる富士山の眺望は、本市の景観の最大の特徴であり、この眺望を保全し、更に活用していくことが大切です。市内各所の適切な地点、道路や河川沿いなどの整備を行い、その他の場所からも建造物等が富士山の眺望を阻害しないよう配慮し、市内随所で素晴らしい富士山の眺望を楽しめるまちとします。

〈将来の景観イメージ〉

- ・ 白糸の滝や富士山本宮浅間大社などの名所から、自然や歴史と富士山とが一体となった印象に残る眺望が得られます。
- ・ 一般国道 139 号、469 号、登山道などの自然、農村地域の区間では、防護柵、電柱、屋外広告物などが周囲の景観を阻害せず、観光客などが富士山の美しい眺望を楽しんでいます。
- ・ 市街地内や富士山麓に立地する大規模な建築物などは、色彩や高さ、緑化などの配慮により、富士山への眺望を阻害しないものとなっています。